

(別添)

新行橋病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定
平成30年 4月 一部改定

【新行橋病院の基本情報】

医療機関名：新行橋病院

開設主体：社会医療法人財団 池友会

所在地：福岡県行橋市道場寺 1 4 1 1 番地

許可病床数：2 4 6 床

（病床の種別）一般（2 4 6 床）

（病床機能別）高度急性期（1 4 床）、急性期（1 8 0 床）、回復期（5 2 床）

稼働病床数：2 4 6 床

（病床の種別）一般（2 4 6 床）

（病床機能別）高度急性期（1 4 床）、急性期（1 8 0 床）、回復期（5 2 床）

診療科目：内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、内視鏡内科、人工透析内科、
外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、内視鏡外科、整形外科、形成外科、
脳神経外科、泌尿器科、心臓血管外科、放射線科、皮膚科、麻酔科、リハビリ
テーション科、救急科、病理診断科、臨床検査科

職員数：（いずれも平成29年9月1日現在）

- ・ 医師 3 7 名
- ・ 看護職員 2 8 2 名
- ・ 専門職 1 3 8 名
- ・ 事務職員等 1 5 9 名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

京築医療圏の面積・人口増減率・高齢化率・人口密度

人口減少及び高齢化率は、共に全国平均を上回るペースで進んでいる。

面積		569.14km ²
国勢調査	(2010年)	189,264人
人口	(2015年)	184,404人
人口増減率		-2.57%
(2010～2015年)	(全国平均)	-0.75%
高齢化率		30.10%
(65歳以上・2015年)	(全国平均)	26.30%
人口密度		324.00人/km ²
(2015年)	(全国平均)	340.80人/km ²

(引用：日本医師会 JMAP (地域医療情報システム) より)

② 構想区域の課題

京築医療圏の医療介護需要予測

医療需要の伸びは鈍化するが、介護需要は2030年頃まで増加傾向。

しかし、2030年以降は医療及び介護需要は、共に減少へ転じる見込みである。



(引用：日本医師会 JMAP (地域医療情報システム) より)

③ 自施設の現状

理念・基本方針

手には技術 頭には知識 患者様には愛を

診療実績

届出入院料 : 7 : 1 入院基本料、特定集中室治療管理料 4、ハイケアユニット
入院医療管理料 1、回復期リハビリテーション病棟入院料 1
平均在院日数 : 14.4 日 (平成 28 年度)
病床稼働率 : 95.5 % (平成 28 年度)

職員数

医師 37 名、看護職員 282 名
専門職 138 名、事務職員等 159 名 (いずれも平成 29 年 9 月 1 日現在)

施設の特徴

当院が所在する京築医療圏には元来より公的医療機関が存在しないため、当院は開設以来当医療圏の基幹医療機関としての役割を担うべく医療活動を展開している。

よって、4 機能のうち高度急性期医療と急性期医療が中心であるが、当医療圏において回復期にある患者の受け皿が不足していることから、当院で回復期医療 (52 床) も行っている。

担う政策医療

5 疾病のうち、脳卒中と急性心筋梗塞には対応できているが、糖尿病については医師 (特に専門医) の確保に難渋している。精神疾患及び在宅医療は医療圏内に専門医療施設が複数存在しており、体制は図られている。

また、がんについても、患者の高齢化が進んでいるものの年々手術数も増加しており、終末期医療も担っている。しかしながら、依然として患者家族の北九州医療圏等の都市部への依存傾向もみられるため、地域自己完結医療の更なる充実を図る必要がある。

他機関との連携

救急医療、災害時における医療、へき地の医療に対する体制は図られているが、周産期医療、小児医療については、他の医療機関との連携を前提に対応している。

④ 自施設の課題

2030 年以降、地域の医療需要の減少が見込まれるが、京築医療圏の高度急性期医療及び急性期医療を担う医療機関が当院ともう 1 施設しかないことを鑑み、今後も現状の体制を維持する必要がある。

しかしながら、慢性的な医師不足が続いており、過重労働を防止する観点からも早急な支援及び対策が望まれる。

また、脳神経外科及び循環器内科以外の医療自己完結率を向上させるための体制整備及び地域医療ネットワークの構築を検討する。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

公的医療機関が存在しない京築医療圏において、これまで通り基幹医療機関として高度急性期医療及び急性期医療の提供体制は維持していく。

回復期医療についても、京築医療圏内の必要病床数の推計値と現状の病床数との比較では回復期病床が不足する見込みであることから、現状の体制を維持していく。

② 今後持つべき病床機能

現在の高度急性期機能、急性期機能及び回復期機能を維持することを基本とするが、今後の医療需要の状況により、その規模の適正化を検討する。

③ その他見直すべき点

医師（特に内科系）を含めた医療従事者の確保に難渋しており、様々なチャンネルを活用して人員の確保に努める。

また、京築医療圏の医療自己完結率が救急49.7%、悪性腫瘍35.0%（福岡県地域医療構想（平成29年3月）より）であることから、これらの医療提供体制の構築及び更なる充実を図る。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	20	→	14
急性期	187		180
回復期	39		52
慢性期	0		0
(合計)	246		246

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	※病床機能の変更予定なし		<div>2年間程度で集中的な検討を促進</div> <div>第7期介護保険事業計画</div> <div>第7次医療計画</div>
2018年度	高度急性期 14床 急性期 180床 回復期 52床 合計 246床	診療報酬改定に伴い、平成30年4月1日付変更	
2019～2020年度	※病床機能の変更予定なし		<div>第8期介護保険事業計画</div> <div>第7次医療計画</div>
2021～2023年度	※病床機能の変更予定なし		

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：95.5%⇒97.5%
- ・ 手術室稼働率：38.3%⇒45.0%
- ・ 紹介率：64.2%⇒70.0%
- ・ 逆紹介率85.6%⇒90.0%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：54.0%⇒50.0%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.2%⇒0.5%

その他：

- ・ 地域医療介護総合確保基金「寄付講座設置事業」に係る医師派遣を受けている。
- ・ 地域医療介護総合確保基金「新人看護職員研修事業」に係る経費補助を受けている。
- ・ 上記2事業の活用継続と他の基金活用の可能性について、今後検討する。

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)